

地域経済が見える。企業がわかる。

おかやま財界

2013
10/5

 **大本組**
OHMOTO

平成25年10月5日発行 (毎月5・20日発行)
昭和49年6月19日第3種郵便物認可

アサヒビールは、
「うまい!を明日へ!」
プロジェクトを通じて、
岡山県の菜の花を中心とした
循環型社会推進活動を
応援しています。

Asahi
その感動を、わかちあう。

**うまい!を
明日へ!**
プロジェクト



アサヒビールは、岡山県内で販売した「アサヒスーパードライ」及び「アサヒスーパードライ
ドライブラック」の売り上げの一部を「岡山県菜の花プロジェクト推進協議会」に寄付し、
菜の花の栽培や廃食油回収システムの構築など、循環型社会実現に向けた取り組みに
お役立ていただいています。

www.superdry.jp



【ビール】 飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。
妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与える
おそれがあります。ほどよく、楽しく、いいお酒のんだあとはリサイクル。



お客様相談室 ☎ 0120-011-121 アサヒビール株式会社

oni ビジョン開局20周年記念番組

「情熱とーく ツインシティー～岡山&倉敷」

第10回ゲスト

岡山市立市民病院
松本 健五 院長
倉敷記念病院
小出 尚志 院長

司会進行

岡山商工会議所
古市 大蔵 副会頭
倉敷商工会議所
大久保 憲作 副会頭

岡山ネットワーク (oni ビジョン) の開局20周年を記念した「情熱とーく ツインシティー～岡山&倉敷」10回目のゲストは岡山市立市民病院 (岡山市北区天瀬) 松本健五院長、倉敷記念病院 (倉敷市中島) 小出尚志院長。岡山の医療を核に、電子カルテなどの情報の共有化や、膨らんでいく医療費問題について議論した。

■新たな拠点

古市 新しくできる岡山市立市民病院はいつごろ完成予定か。

松本 市民病院は平成27年度5月オープンに向けてJ R北長瀬駅前に建設中だ。新病院は救急と、保健医療福祉連携機能を担う。岡山に安心して住めるような、必要とされる病院を目指している。岡山操車場跡地約20²/₁₀₀のうち約2²/₁₀₀を活用。ヘリポートがあるほか、E R (救急外来) も今の20倍で、中四国数々の広さになる。駅からは雨に濡れずに来ることができる。病院の隣の土地約3²/₁₀₀に医療健康福祉の拠点となるランドマークを考えている。

小出 私は倉敷の中小規模の民間病院に携わっている。一方で、岡山県病院協会の取りまとめ役もしている。県内には約170の病院がある。病院協会は岡山大、川崎医科大学の二つの大学を含めた基幹病院、中小の民間病院などで組織しており、全国でも珍しい高い組織率を持つ病院団体。病院医療の向上を通じて、県民の健康・福祉に貢献する役目を担う。かつてよりだんだん広域的な役目が強くなっており、その一つが医療情報の地域で

の共有だ。電子カルテなどの患者情報をインターネットを通じて共有化する「晴れやかネット」を1月から立ち上げ、どんどん広がっている。中小病院の立場で話すと、一つの病院で治療が完結する時代ではなくっており、地域で病気を治すことが大切。その中で私たちの病院が担うことは、大病院での初期治療、急性期治療の後を受けて、リハビリテーションなどの生活を取り戻す医療を強化して、連携することだ。

古市 岡山市内は次々と大きな病院ができつつある。オーバーストアのようなこと、つまり共倒れになりはしないだろうか。それぞれの病院の役割分担がわかりにくいのだが、教えてほしい。

松本 新しくなることは岡山市民にとっては喜ばしいことだが、病院経営側としては、役割を明らかにして、市民に示さなければいけない。病院間が連携して、情報開示することが必要。岡山市全体が一つの病院になればいい。

大久保 団塊世代も高齢化に向かい、健康になる、健康を維持できるまちに住みたいという要望がこれからどんどん高まる。地域で病気を治すという言葉には心強さを感じる。

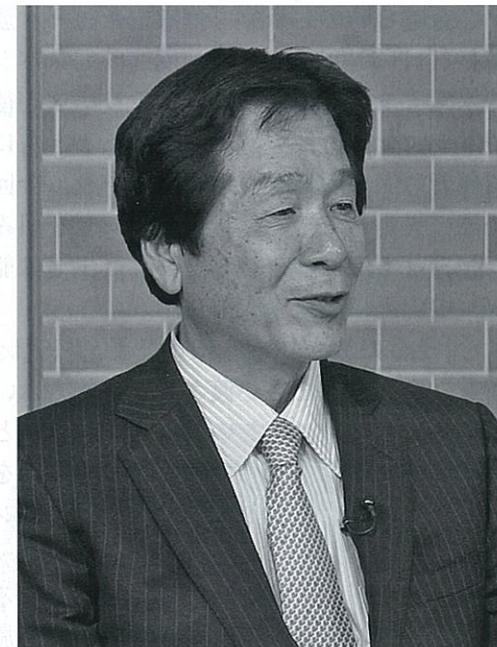
■情報の共有

古市 「晴れやかネット」を推進するに当たって、ネックはあるか。

小出 広げるためには利用する機関、患者のニーズが高まる必要がある。連携する病院、診療所の医者は、紙文書でなく、ネットワークを通じて、電子カルテ情報を見ることができる。その患

健康のサポートできる施設に

松本氏



者の医療情報を通じて、自身の医療知識、経験を高めることもできる。患者の視点では、最大のメリットは安心。無駄がないし、画面で晴れやかネットのシステムを見るだけでも、ずいぶん安心感が違うはずだ。国の社会医療費、社会保障という観点の中で、医療費が今後、どんどん膨らんでいくが、適正化という意味で、検査の重複を整理できる。浸透がいかに大切か、医療機関とともに県民の皆さんにも支持してもらいたい。

松本 病院間での情報の共有化は重要。晴れやかネットをする上での二つの問題点は、維持する費用とプライバシーの問題。それらは、よく配慮すべき。

大久保 地域で治すといっても、どのエリアで治すかという範囲が重要になる。まちづくりの中ではコンパクトシティなど、ある程度の成長限界線を設けたりするが、医療の問題になると、どこまでの地域をワンストップで済ませるのは、人によって変わる。誰もが一つの地域で完結して、在宅まで含めて、終末をうまく迎えられるように考えないといけない。

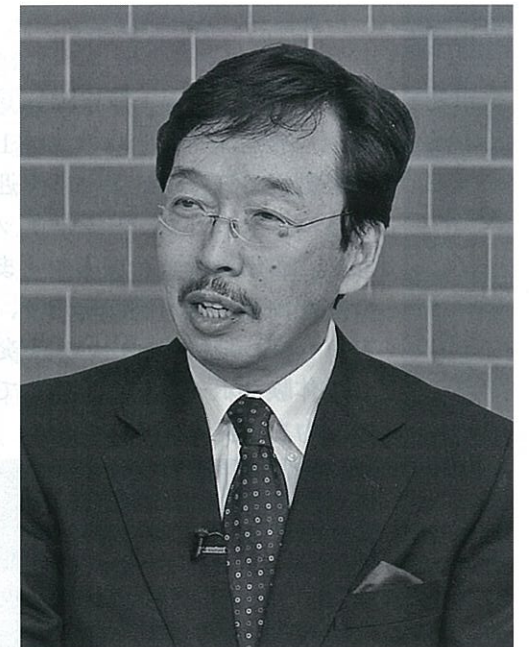
■医療費問題

古市 医療費の問題は今後、どのように変わっていくべきなのか。

松本 医療費がどんどん膨らみ、どれくらい払えばいいのか皆さん心配している。たくさん病院があるが、機能分担をして、病気にならないために何に力を入れるべきかを考えなければならぬ。それから皆さんに医療、医療費に関する知識を持ってもらうためのお手伝いをしなければ

「晴れやかネット」を推進

小出氏



ばならない。自分は今健康だが、いざ病気になると、どんなことが起こるのか、医療費はどのくらいかかるかなどの情報を知ってもらい、賢く準備してもらう必要がある。病気を医者、病院任せにするのではなく、「自分の体は自分で守る」という意識がないといけない。今度できる施設では、そういったサポートをしたい。

古市 今度の施設は、市民病院を核に、「健康テーマパーク」になるのではと期待している。

松本 この10年間、市民病院をどうするかといった中で、必ずやってほしいという機能が三つあった。一つは救急。そのためにE Rを広げた。二つ目は大学と連携した医療人養成のための教育。三つ目が防災拠点だ。皆さんから「こういうことをしてもらえれば健康が維持できる」といった意見を市で募集もしている。健康で長生きできるお手伝いができるものを考えている。

大久保 仕事で建築をやっているのだが、家を建てるのと医療は似ている。個人の開業医と腕の良い大工、普通の建築会社と中病院、大きなディベロッパーと大病院。どれも必要で、初めて長持ちする家ができる。病院も同じ感じがする。それぞれのレベルのところを市民がうまく利用できる仕組みがほしいし、われわれも、岡山、倉敷と分けず、いずれの病院もうまく活用できれば。

「情熱とーく」は45分番組。oni ビジョンと倉敷ケーブルテレビで放送。oni ビジョンの放送枠は毎週金曜午後11時、土曜午前7時、日曜午後9時 (一部時間変更あり)。